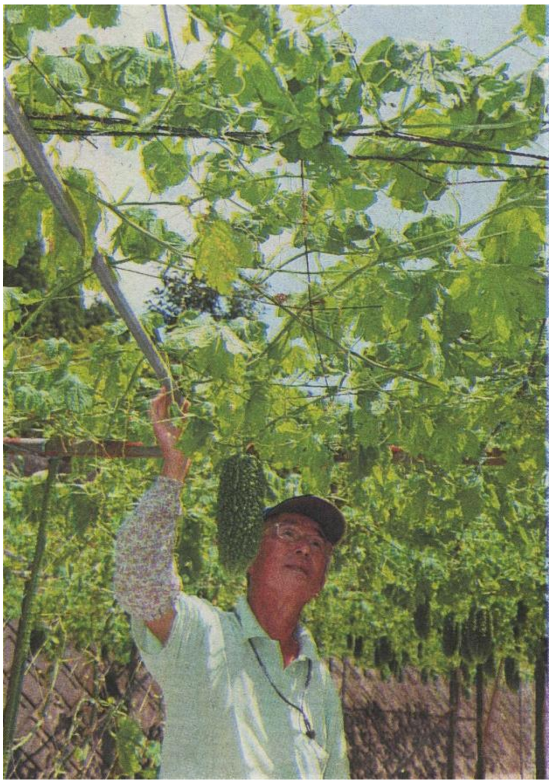
# 続く猛暑，炎天下作業

## 水分１日3～4㍑，梅干で塩分補給

## 鹿県農家・熱中症自衛



炎天下、ゴーヤーを収穫する弟子丸宗一さん　＝23日、鹿児島市本名町

連日のように３５度以上の猛暑日が続く中，鹿児島県内の農家が暑さとの戦いを強いられている。特に日々収穫作業をする野菜農家や牛などの世話が欠かせない畜産農家らは炎天下の作業も避けられない。意識的に水分を補給するなど例年以上に熱中症予防に気を使っている。

鹿児島市本名町で野菜を栽培する弟子丸宗一さん（66）は２３日，ナス，ゴーヤーの収穫に追われていた。ハウス栽培の野菜もあり，室内温度は４５度前後に。「サウナに入っているようだ」と話す。

野菜保管用の冷蔵庫には，ペットボトルの水と茶５００本を用意し，パート従業員が常に飲めるようにしている。「意識的に１日３～４㍑は水分を補給している」と長男の宗幸さん（37）。

弟子丸さんは塩分補給用に梅干しも常備，１日７，８個食べるようにしている。「みな働き者で炎天下でも作業をするが，倒れたら何にもならない。今年は暑さとの戦い」と空を見上げた。

伊仙町犬田布の和牛繁殖農家寿肇さん（42）は日中を避けた作業で熱中症を乗り切っている。飼料用の草は午後５時以降に刈り取り，翌朝４時半に与えている。「人もそうだが，牛もこまめな水分補給が必要。飲みすぎると便が軟らかくなるため，様子を見ながら管理している」と言う。

県経営技術課も農作業中の熱中症対策を呼び掛ける。「手足がしびれる，冷たい」「めまい，吐き気，頭痛」「汗をかかない，体が熱い」などの症状は熱中症が疑われるとして，①７０歳以上は高温の作業を極力避ける②２０分おきに休憩し，毎回１～２杯の水分補給③休憩時は作業着を脱ぎ，体温を下げる④２人以上で作業し，異常がないか確認し合う―ことを求めている。

（小野智弘）

平成２８年8月２４日（水）／南日本新聞